

2014年6月19日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

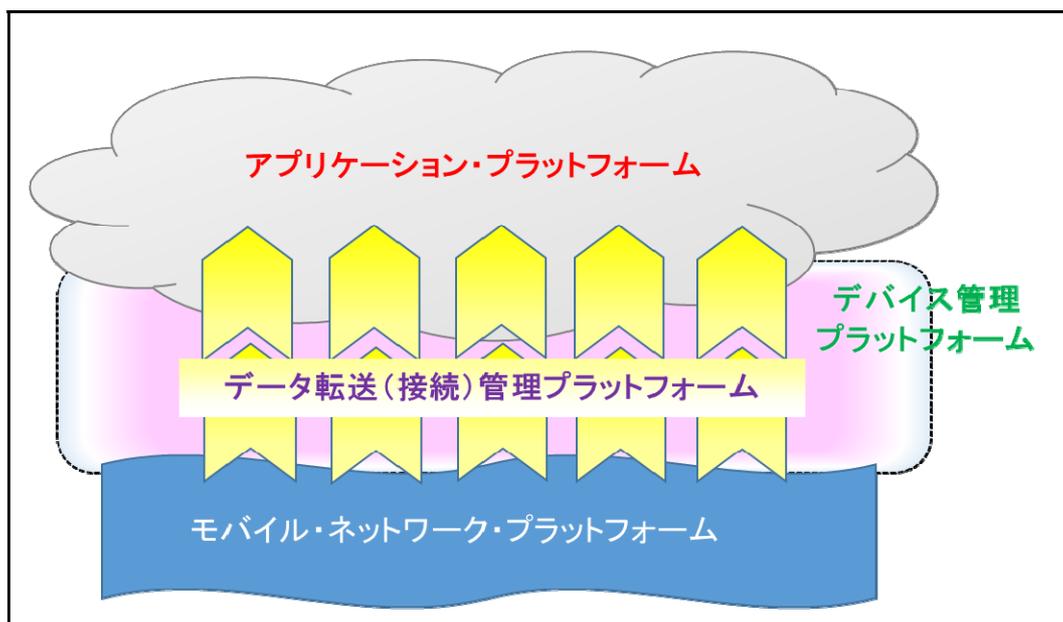
プラットフォーム市場の成長は M2M 市場全体の成長を上回る見通し

～ 大規模案件でのクラウド利用が成長の鍵を握る ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話や PHS、WiMAX などのモバイル回線を利用した M2M (Machine to Machine) 市場に関する調査報告書『国内モバイル M2M 市場動向調査 (2013 年版)』シリーズの「第 3 部 M2M プラットフォーム編」を 6 月に発刊しました (「第 1 部 市場動向編」は 3 月末、「第 2 部 データ通信量編」は 4 月中旬に発刊済み)。

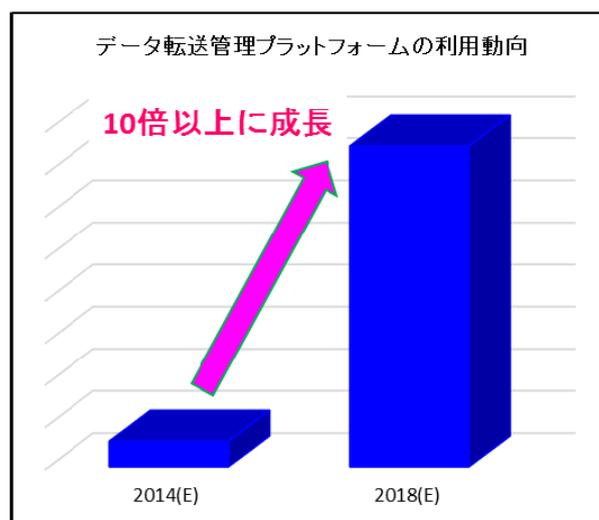
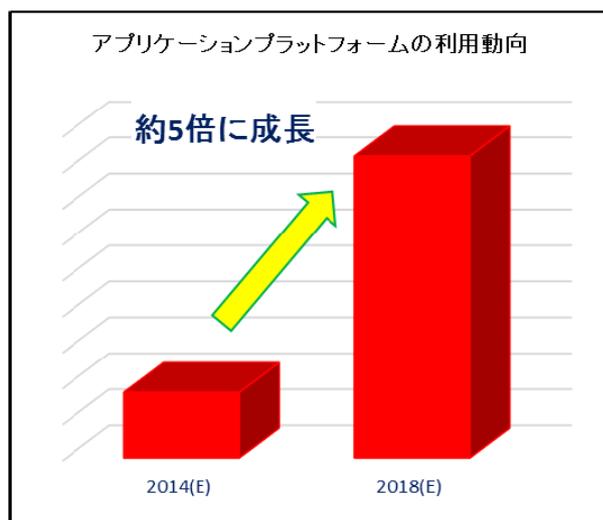
昨今、M2M サービスのシステム構築にあたり、M2M プラットフォームと呼ばれる共通基盤を利用するケースが増え始めている。その主な理由として、共通プラットフォームを利用することで、導入期間の短縮や導入費用の低減という効果が得られるからである。

本調査では、モバイル M2M 市場における M2M プラットフォームを、その機能やサービス内容から、次の 4 つに大別した。センサーやデバイス、機器等からデータを収集しアプリケーション開発までを手掛ける「アプリケーション・プラットフォーム」、アプリケーション開発の手前となるユーザー環境へのデータを転送 (接続) する「データ転送管理プラットフォーム」、デバイスの死活状態やソフトウェアのアップデート等を行なう「デバイス管理プラットフォーム」、モバイル回線の一元管理等を行なう「モバイル・ネットワーク・プラットフォーム」。



図：M2M プラットフォームの主なサービスレイヤ

これら4つのうち、特にM2M市場の今後の成長を左右すると見られる前二者のプラットフォームについて、その市場規模や主な市場参入ベンダーの動向について整理・分析を行なった。



現状、大手企業による大規模案件等では共通プラットフォームを利用したシステム構築ではなく、個別の仕様に依じてスクラッチで構築するケースが一般的と言える。しかし、今後は利便性などの面からプラットフォームの利用が増えていくものと期待されている。また、最終的にデータを自社内に置くケースや独自アプリケーションの開発を行なうケースでは、データ転送管理プラットフォームの利用が伸びると見込まれる。これら2つのプラットフォーム利用が堅調に伸びていくと、成長率に関してはモバイルM2M市場全体を上回るものと考えられる。

主要なベンダー動向を見てみると、アプリケーション・プラットフォームでは、NECやNTTデータなどがやや先行しているが、海外勢も攻勢をかけてきている。Axedaは日立ハイテクノロジーズと戦略的パートナーシップを提携することで事業強化を図り、ThingWorxも日本システムウェアに続きマイクロテクノロジーと販売代理店契約を結ぶなどして、日本市場に本格的に参入してきた。データ転送管理プラットフォームでも海外ベンダーが参入している。deviceWISEサービスを手掛けるILS TechnologyはCTCと提携して国内向け事業を本格化している。また、いずれのプラットフォームサービスでも、日系の中堅企業によるサービス提供も見られ、今後競争が活発化するものと予測される。

【資料紹介】

『国内モバイルM2M市場動向調査(2013年版)』は「第1部市場動向編」、「第2部データ通信量編」、「第3部M2Mプラットフォーム編」の3部構成を取っています。

「第1部」はコンシューマ製品を含むM2M市場を調査対象とし、契約回線数で市場規模とその動向を分析した。「第2部」では法人向けM2M市場のみを調査対象とし、同市場におけるデータ通信量(トラフィック)で市場規模と動向を分析した。

第3部資料に関しては、基本的に第1部、第2部をご購入された企業様向けの追加資料となります。

「第1部」及び「第2部」の内容に関しては下記お問い合わせ先にご連絡いただくか、あるいは弊社プレスリリースをご覧ください。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ

第3グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)

TEL : 03-3866-4505